

2020年 事業報告書
2020年1月1日から2020年12月31日まで
(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

1. 事業概要

2.

特定非営利活動法人化して10月で9年目となり、第8回定時総会を2020年2月1日、日本ルーテル教団アンカーホールにて開催、2020年度の活動、予算の承認を得た。

理事会は2月、3月(臨時)、7月、11月の4回開催した。感染予防の観点から、3月以降はZOOMによるオンライン会議とした。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の全国的流行のために、3月以降は児童養護施設への訪問が実施できず、当初の計画から大幅な変更を余儀なくされた。またこの状態は収束しておらず、今後も続く見込みである。

主な変更点としては、①甲状腺エコー検査の追跡が必要な高校3年生と卒園生だけに実施した、②新型コロナウイルス感染症対策として、7施設に非接触性体温計を贈呈し、また感染症発生時に施設で対処できるようPPE(個人防護衣)などを共同備蓄として県内2児童養護施設においた、③発達障がいを持つ児童に関する研修会をオンライン開催して、その録画を各施設で視聴できるようにした等である。

その他、2019年度から取り組んできた被曝低減化対策事業である、原子力発電所事故直後にまとめた「福島県社会福祉協議会児童福祉部会『原子力発電所の事故にかかわる緊急時の対応マニュアル』(平成24年5月初版)」を改訂して「原子力発電所の事故にかかわる緊急時の児童養護施設向け対応マニュアル-感染症対策-改訂版(案)」として、7月に同部会に報告した。

また、一般社団法人「すこやかなの会ふくしま」と連携協力しながら、各施設で行われる卒園前の自立準備教育に当たった。

一方、プロジェクト型の助成金を獲得していなかったため、事業の変更を柔軟に行うことができた。

事業1:健康状態把握事業では、「健康手帳」を、8施設の3月で施設を卒園する若者25名、家庭復帰児童6名に体温計とバンドエイドと共に贈ることができた。自立前教育「エンジェルサポート」においてワークショップ形式で、活用法について説明した。

外部被曝のモニタリング事業は、ポケット線量計による測定を2施設で継続、内部被曝のモニタリング事業では、甲状腺エコー検査を感染予防しながら、高校3年生に実施した。

事業2:「原子力発電所の事故にかかわる緊急時の児童養護施設向け対応マニュアル-感染症対策-改訂版(案)」を県内8児童養護施設園長会で報告した。

事業3:健康教育に係わる事業は、①甲状腺エコー検査実施時に、事前の説明のために作成した紙芝居を用いて、継続検査の必要性について説明をした。②勉強会は「発達障がいを持つ児童の理解」を開催した。

事業4:看護職等専門職の連携推進事業は、研究会の開催は感染予防を考慮して実施しなかった。これまでの研究会の報告書を作成して、児童福祉部会長に提出した。

事業5:市民を対象とした啓発活動事業では、ニュースレターを2回発行した。

また、一般社団法人 すこやかなの会ふくしま(2019年12月設立)と連携をした。本法人が行ってきた卒園した児童養護出身者を対象とした事業は同会が担うものとして運営した。

日本ルーテル教団、聖公会 Girls Friendly Society、はらからの歌声、No Nukes ロッキングオンジャパン、2010 オリーブの木からは継続して助成を受けており、他にも多くの団体、個人の寄付を頂戴した。2020年12月31日現在、正会員29名、賛助会員63名、法人会員2法人により支えられた。